

海外安全対策情報（平成28年1月～3月）

1. 治安情勢

(1) ブリスベン・ゴールドコースト地区

全体的な治安情勢に大きな変化はなく、犯罪発生率は比較的低い数値で推移しているが、性犯罪、窃盗、薬物事犯の犯罪発生率は日本と比較すると依然として極めて高く、邦人を被害者とする同種事案も散発している。

(2) ケアンズ地区

ケアンズ市及びその近郊は州内においても犯罪率が高い地域であり、警察官の増員やパトロール強化等の治安改善努力が行われている。

2. 一般犯罪の傾向

(1) ブリスベン・ゴールドコースト地区

ア 観光地の駐車場等では、依然として車上狙いや置き引きが多発している。
イ 深夜、早朝の徒歩通行中に襲撃され、金品を強取される事案が数件発生している。

(2) ケアンズ地区

ケアンズ市及びその近郊では、邦人が被害者となる窃盗等が散見される。外出時や就寝時等に被害に遭遇しやすいので、家屋又はホテルルームのドア、ベランダ出入り口及び窓等については確実に施錠する。また、飲食店や公園などでの置き引き被害にも注意を要する。

3. 殺人、強盗等凶悪犯罪の事例

2015（平成27）年9月8日、ゴールドコーストにおいて、男が自分の運転する車を女性の車に激突させた上、暴行を加えて殺害する事件が発生した。別れ話のもつれが原因とみられる。また、同月10日には、ゴールドコーストのマクドナルドで、男が女性をけん銃で撃ち殺害する事件が発生した。離婚を巡るトラブルが原因とみられる。

いずれの事件もほかに被害者はいなかったが、凶悪犯罪は散発的に発生していることから、身の安全を守り、巻き添え被害に遭わないためにも、外出中は周囲の状況に十分注意する必要がある。

4. テロ、爆弾事件発生状況

2014（平成26）年9月、シドニー及びブリスベン郊外でイスラム過激派関連施設に対する家宅捜索が一斉に行われ、複数の逮捕者が出たほか、同年12月には、シドニーにおいて、イスラム国に影響を受けたとされる人物による人質立てこもり事件が発生した。

2015（平成27）年も、4月、5月にメルボルン等でテロを計画していた

若者が相次いで検挙されたほか、12月には政府機関を対象にテロを計画していたとして少年らが逮捕されるなど、テロ関係の摘発が続いている。

豪州政府のテロ警戒レベルは、①certain（确实）、②expected（予期される）、③probable（起こりそうである）、④possible（可能性がある）、⑤not expected（予期されない）の5段階に分けられており、現在は、③probable（起こりそうである）となっている。豪州政府は日常生活には支障がない旨国民に呼びかけており、過度に心配する必要はないと考えられるが、報道等を通じてテロ関連情報の収集に努める必要がある。

また、日頃から周囲に不審な状況がないか気をつけるようにし、特にスポーツや屋外コンサート等、大型イベントの際には、通常以上に周囲に注意を払い、万が一不審者、不審物を発見した場合には、不用意に近づくことなく、警察への通報を心がける。

5. 誘拐、脅迫事件発生状況

邦人が関係する事案は発生していない。

6. 対日感情

一般的な対日感情は概ね良好であり、現在までのところ、日本人や日本企業の安全に対する脅威となり得る問題は特段認められないが、捕鯨や環境、歴史問題等を捉えた抗議活動が散発的に行われていることから、動向に注意を払う必要がある。